

施策推進一覧表

計画項目	頁	重点項目	令和5年度の主な取組
(1) 交通安全思想の普及徹底			
ア 交通安全に関する普及啓発活動の推進			
① 横断歩道での歩行者優先ルールの定着をすすめる	7	重点	○のぼり、横断幕の継続設置(学校や公共施設、集落内の歩道周辺) ○マグネットシートの事業所配布(交通安全協会加盟70事業所) ○横断歩道合図(アイズ)運動プラスの推進
② 自転車の安全利用の推進	8,9		○中学生を対象とした損害賠償責任保険の掛金助成(一律1,000円) ○子どもや高齢者に対するヘルメット着用の啓発(交通安全教室等)
③ 反射材用品等の普及促進	9		○交通安全運動での反射材用品の配布
④ 効果的な広報の実施	10,11	重点	○交通安全協会や警察署との連携による交通安全運動、街頭キャンペーンの積極実施(年間4回、学校、商用施設ほか) ○広報(まちかどレポート)での特集記事掲載 ○交通安全運動での自治会交通委員による地域住民への啓発
イ 段階的かつ体系的な交通安全教育の推進			
① 幼児、小学生、中学生、高校生への交通安全教室の推進	12	重点	○幼児:幼稚園、認定こども園13園中12園で実施予定 ○小学生、中学生:全校で実施予定 ○高校生:新入生への啓発 ○交通安全指導員(5人)の活動等参加
② 高齢者への交通安全啓発及び運転免許証自主返納の推進	13	重点	○歩行者や自転車の危険行動の啓発 ○運転免許証自主返納制度のPR(年間250人目標、5,000円相当記念品交付)
③ 障がい者への交通安全教室の推進	13	重点	○障がいの状況に応じた交通安全教室の実施(篠山養護学校:交通安全教室と防災訓練を隔年で実施)
④ トラクター等の農機具による事故防止の推進	13		○農業用大型トラクター運転講習会(大型特殊自動車運転免許〔農耕限定〕)の参加啓発・周知

計画項目	頁	重点項目	令和5年度の主な取組
(2) 交通環境の整備			
ア 道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備			
① 道路における交通安全対策の推進	14		○最高時速30kmの区域規制「ゾーン30」の周知啓発 ○通過交通の抑止を図る「集落くらしの道」の整備等（整備希望場所の聞き取り）
② 通学路等における交通安全の確保	15	重点	○通学路安全対策プロジェクト会議」に基づく定期点検や対策の実施（路側帯カラー舗装、「文」マーク塗装、通学路通行抑止の看板設置ほか） ①城北畑小学校区（郡家～黒岡：市民センター北側の市道）の路側帯カラー舗装 ②西紀北小学校区（本郷：小学校北側の市道）の外側線設置、交差点カラー舗装
③ 高齢者、障がい者等の安全に資する歩行空間等の整備	16	重点	○歩道等のバリアフリー化促進（市民センターから上二階町交差点までの歩道改修に着手）
イ 交通需要マネジメントの推進	16	重点	○公共交通に対する支援、個別交通との役割分担の推進（路線バスやコミュニティバス、タクシーや乗合タクシー、市町村運営有償運送） ○地域公共交通計画の策定
ウ 交通安全に寄与する道路交通環境の整備	17		○自治会における街路灯やカーブミラー等を設置支援（1/2補助）
(3) 救助・救急活動の充実			
ア 救助・救急体制の整備	17		○救助・救急活動の最先端の技術や知識を取得しながら、ドクターヘリ等の高次医療機関の積極的な活用
イ 救急医療体制の整備	17		○急性期患者の早期収容に繋げるための医療機関との連携協力を推進

### 春の全国交通安全運動

## 2市で啓発グッズ配布



街頭で啓発チラシなどを配る交通安全協会員ら  
＝丹波篠山市北新町

「春の全国交通安全運動」が11日に始まり、丹波地域の2市でも街頭で啓発活動があった。同運動は20日まで、歩行者の安全確保、自転車のヘルメット着用などが重点目標となっている。

丹波篠山市では、観光施設「大正ロマン館」(同市北新町)前の交差点などで、丹波篠山交通安全協会員や篠山署員らが街頭活動。信号機がなく、県警が重点啓発する「おもいやり横断歩道」に指定されている、三の丸広場北側の交差点でも、市民や観光客へ啓発グッズを配布した。

同運動に先立ち、篠山東雲高校(同市福住)で9日に行った啓発活動では、生徒らへ自転車のヘルメット着用が4月から努力義務になったことを伝えた。

丹波市でも11日、同市柏原町母坪の商業施設「コモレ」で丹波の森一で広報車両の出発式があり、市交通安全運動推進会議メンバーがチラシなどを配って交通安全を訴えた。

(堀井正純、谷口夏乃)

### 地蔵まつりを4年ぶり開催

# 交通事故死 1年超ゼロ

## 17日時点で丹波433日、丹波篠山571日

### 啓発活動や信号機設置奏功

丹波地域で交通事故が発生しなかった日が、1年以上続いている。丹波、篠山両市によると、いずれも17日時点で、丹波市内は433日、丹波篠山市内は571日を記録。丹波市は柏原署から丹波署に名称が変更された2004年11月以降で過去最長、丹波篠山市も篠山署の統計資料が残る01年1月以降、歴代2番目となっている。20日は「交通事故死ゼロを目指す日」。

(伊藤颯真、谷口夏乃)

丹波署によると、過去30年間で、管内の年間交通事故死者数は1995年の15人が最多で、2005年からは平均4人で推移する。これまでの交通事故死ゼロ日数の最長は、20年1月8日～21年3月6日の423日だった。

21年は当時中学3年生の女子生徒が通学中に大型トラックにはねられて亡くなった事故を含め2人が犠牲になった。22年3月10日に高校生がバイクの単独事故で亡くなって以降、死亡事故は発生していない。

同署は、地道な啓発活動や住民らの要望を受けた信号機の設置、摩耗して見えづらくなった横断歩道の補修などが成果につながっていると分析する。

同署の井上栄純交通課長(53)は「警察だけでは交通事故死ゼロを続けることはできない。各種団体や市民の協力を得ながら、市内の安全な交通環境をつくっていきたい」と語った。

丹波篠山市内の最長記録は、11年9月8日～13年6月16日の647日。過去22年で死亡事故がなかった年は12、18、22年の3年のみで、篠山署の篠田敦志交通課長(52)は「1年通して死亡事故がないのは珍しい」と話す。

最後に死亡事故が起きたのは21年10月23日。2カ所であり、交差点を横断中に軽乗用車にはねられた高齢女性と、トンネルの壁に衝突した軽ワゴン車に同乗していた女性が亡くなった。

市内では1年半以上、交通事故による死者は出ていないが、重傷事故は複数発生している。篠田交通課長は「車は法定速度を守って走行し、横断歩道前では十分に減速してほしい。歩行者は横断歩道を利用するなど、事故防止に努めてほしい」と呼びかけた。